

対談者

南知多町 町長

石黒 和彦 様

半田青年会議所 理事長

曾根 香奈子



何も無いが
あるということなのかな

曾根香奈子（以下曾根）よろしくお願
いいたします。

南知多町長石黒和彦様（以下町長）よろ
しくお願いいたします。本日は、半田青
年会議所さんのメンバー、山本町議にも
無理言って同席していただき、ありがと
うございました。よろしくお願いします。

南知多町議会議員山本優作様（現半田青年
会議所正会員）（以下山本）よろしくお願
いいたします。

曾根 山本君もよろしくお願いします。

先程、インスタで景色がとても綺麗と
投稿されていた、大井の景色を見に行っ
てきました。菜の花がたくさん咲いてい
るところだったので、坂の上からそ
のまま海がものすごくきれいに見えまし



た。食事もして、海の幸を堪能させてい
ただき、南知多町はまさしく自然が素晴
らしいところだと実感をいたしました。
さて、町長が今3期目を務められるに
あたり、「減らすものと増やすものを3
つ」という取り組みを掲げられていると
思います。

町長 去年、2期目の終わりからね。

曾根 はい。その取り組みで町長の掲げら
れている、変えてはならないものと変え
ていくものというものは、我々の青年会
議所活動にもあると思います。理事長を
させて頂きながら、変えていいものと変
えてはいけないものの区別をつけつつ、
どこに判断基準を置くのかを考えていま
す。



それでは、活力あるまちづくりとは、という題目でお話させていただきたいと考えております。空き家バンクと言う取り組みにも興味を抱かせていただきましたので、そのあたりを含めて、町長の考える南知多町としての「活力あるまちづくりとは」について話を始めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

町長 まず、自分のこのまちに対しての想いというのですが、現在の人口減少している南知多町は、私達の父親の世代が成功したまちの一つの姿との認識をしています。本町の基幹産業は漁業と農業です。それに携わってきた皆様の目標が何だったかと言うと、自分の子どもたちが家業を継ぐより学力をつけ、外に出していくということでした。不安定な農業収



入や漁業収入ではなく、サラリーマンのような安定した収入を得られる職業に就けるように、との願ひが叶ったまちなのです。父の世代は、長男が跡を継いで、次男・三男や女の子は外に出し、町外に世帯を持たせると言う義務感を持っていたように思います。長男が後を継ぐと土地があったり、漁師だと何千万円もする船一艘が資産としてあったりと、家業を担うのは長男という感覚は残っていました。その後、私たちの世代では、長男まで外に出ちゃうようになり、若い人もますます減って行きました。

成功したお父さんお母さんたちは、近所に友達もおり暮らしやすく、子どもが同居してくれば生活も楽であり、比較的豊かな高齢者が残っているまちだと思っています。

商売をしている人たちでも、倒産等も少なく穏便に店じまいが出来ることも、様々な意味で人生の成功した豊かな人達と言えるのではないのでしょうか。

曾根 そうなのですね。

町長 そういう人が多いので、新たに活力あるまちを作っていこうと思っただけでも、安定した家庭の中で多い少ないは別として、生活できる安定した収入がありますから、自分たちのまちがじわじわ



疲弊していくことが体感できにくく、気づいていても様々な変化を起こすことに積極的ではありません。

良いとか悪いとかいう意味ではなく、このまちには商工会が3つ、観光協会が9つ、漁業協同組合も6つあり、それぞれで活動できていることも、ある意味の豊かさからで、その組織が新たなことをやろう思ってもなかなか動かない、変化を感じられないことが、若い子たちが外にでていく要因の一つかとも思います。

また、この町で生まれ育った優れた会社の多くは、外に出ていきます。そして、外に出て成功した会社を町民は我が事のように自慢し喜んでいきます。実に人柄の良い、豊かな人々が住むまちだと思いま

せんか。
曾根 はい。

町長 町長に就任した当初は、南知多町が誕生し50年目でもあり、町の活性化のために一体感を求めて、南知多町をひとつにまとめ戦っていかないかという想いを持っていました。それぞれの地区で言語や文化も違うなか、それを無理やりひとつにまとめようと戦っていたわけです。ですが、この8年間で、地区の間には日本海溝よりも深い溝があつて、そういうのを無理やりまとめて一緒にやるうということに拘り、総論を言い続けるとも埒があかないということを実感いたしました。



まずはそれぞれの地区がそれぞれの文化とか産業とかを活かしながら、活性化に向かう変化は地区からとの方向に手段を変更しました。

ゴミ減量の施策もその一つです。報奨金を用意し、各地区で一番ゴミを減らした地区に、区民一人当たり50円とか二番目が40円とか競争させたらゴミ減量の成果がどうなのだろう考え政策を打ちました。一定の成果はありましたが、こんな時代に競争なんかさせてもいいのかという意見が出て、本年度から自分たちの地区の去年のゴミの量と本年度のゴミの量で比較という自分との戦いに変えることにしました。そういうこともありましたが、活力は変化の動きで感じ、変化は地区から始め、その先に一体感を求めて行こうと思いました。

また、活力あるまちというと、生活を豊かにしたり産業を振興したりと言われますが、その主役は町民だと思つていますが、役場は、産業を振興しようとしても主役がいなくてできません。主役を見つめるためには、町民を含めこの町の良さを認めてくれたり、共感してくれたりする人たちを、どう見出し、どう呼び込んで来るかっていうことにも目を向けないといけないと思つています。

曾根 空き家バンクは、移住者を求める流れでターゲットしたのでしょうか。

先程町長は、子供の幸せのため外に出ていくことを目標としていた人々の成功した町の姿が、現在の人口減少した町の姿であり、さらに、この地域で生まれ育った優秀な会社が、外に出て成功して町民は喜んでいとおっしゃっていました。そのかわりに、空き家バンクと云う施策で、外から来る人を受け入れて町民の数を増やそうという取り組みをしているということでしょうか。

町長 先程言つたみたいに、幸せになるため、成功するため、人も会社も外に出ていきます。そうすると、子供が帰らない限り、親も最後は子どもの家にいつたりします。結果、家が空くことになりまして、そして、人が住まなくなると家は朽ちるのが早いですね。

曾根 はい

町長 その空き家の率が、平成25年の状況では21.7%と愛知県で南知多町がダントツなのです。2番目が常滑だったかと思えます。空き家は放っておくと負の遺産、利用すれば正の遺産、空き家を正の遺産にすることが空き家バンクの原点で、様々な効果を求めながらも、理事長の言われる移住者を求める事を主眼に

置いています。

今の空き家バンクの成績は、登録した空き家の成約率が70%と驚異的に高いわけですが、色々問題もあります。私が、平成21年に町議会議員になり翌年の平成22年に、空き家バンクはスタートしました。しかし、空き家バンクはスタートしたが紹介できる空き家が2件くらいしかなく、スーパーマーケットをオープンしたけど、商品がないみたいな状態だったので「もっと商品を増やしてからスタートしないといけないじゃないのか」と質問をしました。ところが、2年後に町長になったものですから、そのままその問題が自分に返ってきてしまっています。

曾根 (談笑)

町長 そこからは、まず商品仕入れをどうするか、利用して頂く方たちにどういう形で知ってもらおうのかが、空き家バンクを利用していただく勝負のポイントです。空き家バンクには様々な思いを寄せて職員と共に大切に成長させていきたいと考えています。

地方創生の中で、人を呼び込むための成功例が発表されていますが、現在、人口減少ストップに特に効果が出る優れた政策を打てずにいます。その中で、空き

家バンクの一番の特色、利点は、町の職員がゲートキーパーの役割をすることができることです。私が不動産業者だとしたら、買ってくれる人なら誰でも良いと考えます。しかし、空き家バンクでは職員が「何故ここにお見えになったのですか」とか「どういうことがしたいのですか」とか、「どういう場所がお好みですか」とかを聞くことが出来、候補地が決まれば不動産業者の情報にも書いてない、その地域の行事やルールといった情報や、近くに住んでいる方々の情報などを教えることも出来ます。つまり、バンク利用者が町のことが好きなのか、本当にこの町に合っている人なのか、判断することが出来ます。今迄で2、3人うまくいかなかった人もいますが、営利業務として



やるのではなく、まちづくりとして、私達のこの町を好きになってくれる人達をコツコツと集め、暮らし、歴史、文化、言語の違う各地区を多様性が豊かなまちとして捉え、そこに住む人々やこの町に思いを寄せる人々と連携する事で、しぶとく生き残っていける未来につながる道が開けるのではないかと考えています。

3期目のテーマである、持続可能性都市の礎をどのようにして作るのかということが、そのあたりにあると思います。若い人にもこの町を愛することができ、ゆったり、まったり、のんびりと暮らす人達が集まる手立も打っていかなければいけません。

曾根 ありがとうございます。持続可能な町にするというお言葉が、活力あるまちであると考えていたのですが、これから先の展望のひとつで、交流の盛んなまちとして姉妹都市の提携を結ばれたそうですが、未来につながるまちにしたいとおっしゃられていた部分が、次のテーマであります。このまちの先の展望や取組みとして教えていただきたいです。

町長 姉妹都市というのは、下諏訪町のことですね。南知多町は友好交流しているまちは多くありますが、姉妹都市としては下諏訪町が初めてで、町の歴史が12

5年もあり「御柱祭り」と諏訪大社」で有名なまちです。交流を始め25年目を迎えて、下諏訪町でも初めての姉妹提携をしましょうということ、昨年の6月に協定を結びました。

我が町は、知多半島の5市5町の中で、唯一子ども達に留学やホームステイを経験させる行政施策を持っていない町でした。その中で下諏訪町とは3年前から、子供たちの交流を進めていた事もあり、姉妹提携をするきっかけの一つとなりました。

未来を展望する時のキーワードとして3つの要素があるので、交流の盛んなまちがその一つです。というのも、



南知多町は観光では古くから有名で、愛知県では海水浴場として内海の名は知られているなど、減ったと言われても観光客全体では300万人もの人が訪れて下さっています。

2つ目のキーワードが先程言った多様性ということです。南知多は50何年たっても地区ごとにバラバラ感は否めません。しかし、そういう部分を活かして、お互いがそれぞれの生き方とか、それぞれの暮らしぶりを認め合いながら、調和して連携していくとなれば多様性豊かなまちとも言えます。

3つ目のキーワードは強靱化されたまちということ。強靱化のポイントは、強くしなやかな連帯感があるか、なければどう構築していくのかだと考えています。

南知多町には口の悪い人が多そうに感じられるかもしれないけれど、けっこう捨てたもんじゃなく、人情味のある町民が多く、特に漁師町の人々は、格好はラフで言葉は横着でも中身は優しく、隣の家との距離も近いことから、隣が見えたり窓越しに声を掛け合ったりして、近くて深いつながりが保たれています。若い人たちは、そういうことはあんまり好きじゃないのかもしれませんが、その繋が



りが、防災でよく言われる自助、共助、公助の面で大切な連帯感として強く残っているまちであると思っています。

今一つ、財政での強靱化を目指さなくてはなりません。普通政治家としての仕事は何かを作ったり、新しい政策を提供して喜んでもらったりとかが、一番の醍醐味だと思うのですが、私の場合はどれだけ壊すかということが求められていると思っています。というのも、老朽化した公共施設がものすごくありましてね、それらの取り壊しを含め計画を作ったら、1166億円程度必要との試算が出てしまいました。公共施設の総合管理計画というもので、基本的に耐用年数が過

きたら立て直すことを前提の試算で、1年で29億円も必要になってきます。税金の使い方として簡単に分けると、投資的経費と言いましてある程度自由に政策に使えるお金と、人件費、公債費、扶助費など義務的経費と言われ、自由に増やしたり減らしたりできにくいものと2つあります。その投資的経費が本町では単年度でおおよそ9億くらいしかありません。しかも、その投資というのは新しく生み出すものだけではなく、道路や川や橋や建物を維持管理するのも投資ということになっていきます。

そういう中、老朽化して危ない公共施設は使っていただけなことから取り壊しをするか、延命化を図るか財政と時間とのにらめっこをしつつ選択していかなければなりません。同時に町内の危ない空き家も壊さないといけません。それら負の遺産を財政の健全化を保ちつつ適正に管理していくことが私の大きな仕事となります。

そうすることで、次の時代に向け、まちをできるだけ早く真白なキャンバスにし、若い人たちがそのキャンバスに自由に未来を描けることに繋がって行くこととなります。

これら3つのキーワードで表すまちの

姿を重ねることが、持続可能都市としての礎になると考えています。

曾根 すこし話がそれるのかもしれませんが、今まで半田市や阿久比町、東浦町の首町様を訪問させていただいて、今回石黒町長のところに来たのですけど、皆さんとは真逆の意見でした。その「活力あるまちとは」というところで、今まで対談させていただいた意見と、石黒町長の考える、今あるものを壊していつてまっさらにするというのは、間逆な考えだなと感じて、驚いています。

町長 あそこに今年の1月12日に亡くなられた名誉町民で哲学者の梅原猛さんの写真がありますが、平成23年3月9日に町長になって46日目でしたが、初めて先生にお会いしました。就任初年度が南知多町制50周年を迎える年で、この年の6月1日に記念講演をお願いするための訪問でした。そして、その2日後に東日本大震災が発生しました。梅原先生は仙台生まれということもあり、当時の菅総理大臣からの電話で、復興会議の名誉議長を依頼されました。その会議で、「この災害はもちろん自然災害であるし、人的災害でもあるが、原発事故は人間が便利さ豊かさを追い求めた結果の、文明災である。この被害から復活するに

は、日本古来の考え方に戻って復活させていくべきであり、復活できる。」と震災を看破されました。その考えが『草木国土悉皆成仏（そうもくこくどしつかいじようぶつ）』といって、草にも木にも石にもあらゆるものに魂が宿って成仏するのだというメッセージをバーンと出されました。私はすごく感動して、すごい人とお会いできたなと思っております。震災の時のお言葉ではありましたが、同時に南知多町のありかたをおっしゃってくれたような気がしています。

私たちのまち南知多町、一次産業を基幹産業として観光業が地域の賑わいと経



済を牽引する位置づけとなっております。本町を訪れて下さる300万人もの人々を惹きつけているのは、人の造った施設ではありません。南知多町の自然の恵みがすべての産業の原点であることに感謝と誇りをもち、梅原先生の教えの下で町民の皆様と共に豊かさや活力を追い求めて行こうと思っております。

曾根 実は対談前に、海を見渡せる景色のところに行きたいと思ひまして、先程大井に行つて来ました。町長のおっしゃられた通り、つくられたものでは無く、そこにあるものとしての良さがあつて、そこにくると本当に良いね、きれいだよねといつて盛り上げられることが、南知多町



の持つている良さだと感じました。豊かさというものと、地域にないもので作られていない良さというのは、この地域の一番の宝ではないのかなと思つております。

町長 ありがとうございます。

南知多の好きな景色とは「私きれいでしょ」と言つて訴えるような絵葉書のよな景色ではなく、何も主張せず、その時々、人の心に寄り添い変わつて行く景色というのかな。若いころに、名古屋から朝方帰る時があり、南知多道路の鵜池遮光トンネルを超えたあたりからだん

だんと下がつてきて、内海に入つてくると何か知らん心が落ち着いてきたし、ちよつと嫌なことがあつて、海を眺めてポ一つとしていると何かしらん気持ち澄んでくるみたいで癒され、自然がその時々、心模様を全て受け入れてくれていからだと感じています。逆に言うとも無い所なのだけど、その何も無いがあるということなのかな。

曾根 最終的には自分の心が決めることだと思ひますね。それが地域の宝なのかなといふことは、すごく感じました。楽しくてあつという間に時間が過ぎてしまひますね。



では最後に、持続可能なまちをつくりたいという、その持続可能という言葉が町長からおっしゃっていたことと、私がSDGsバッチをつけていたら、気づいていただいたということがすごく印象に残っています。

実は半田青年会議所を含む全国の青年会議所が、SDGsを推進していくという運動を推進しております。ですから、その部分の話を聞いていただければと思います。

町長 ぜひ教えてください。

曾根 ありがとうございます。それでは、担当の間瀬から説明をさせていただきます。

間瀬理子（以下間瀬） このSDGsと言うものを初めて聞いた時に、私は難しい印象を受けました。しかし、勉強会やカードゲームといった推進活動をやらしていただく中で、そんなに難しいものではないということに気づきました。SDGsは行政の中でも国連で発表をされて取り組んでいく準備をしていると思います。南知多町でも、日本一すみやすいまちを目指していくなかで、姉妹都市の提携や、ふるさと納税の返礼品に海産物を活用していることなど、将来に渡り存在し続ける3つの姿を思い描いて様々

な取り組みをされていると思います。これらの取り組みをSDGsの17の目標に当てはめると、「6. 安全な水とトイレを世界中に」「11. 住み続けられるまちづくりを」「14. 海の豊かさを守ろう」というものに当てはめると思います。このことは、SDGsを意識して特別なことをする必要がなくて、いままで活動していたことにSDGsを当てはめることが出来るということ。そしてあてはめたらえでSDGsを少し意識することでよりその質を高められるということになると思います。

先程話しに出ましたカードゲームで、SDGsの入口を体験することが近道になると思います。もしSDGsについて興味をもっていただいているのでしたら、半田青年会議所がカードゲームを通



して、皆様にお伝えさせていただける機会になると思っておりますので、お話しただければと思います。

町長 南知多町では第6次総合計画という町の基本計画があり2010年から2020年までの11年間の計画なのですが、新総合計画策定の準備をしている時に知ったのが、日本で一番寒いところ下川町の総合計画が、SDGsと絡めて上手に作成しているなど感心しSDGs文字が心に残っていました。

曾根 それでSDGsについてご存知でしたのですね。

町長 新総合計画は2021年からスタートなので、来年度から作る予定でしたが、企画課の方に1年前倒しで準備をするよう頼んでいます。下川町の計画を見た時は、SDGsはまちづくりのテーマ等を決めるのに、その項目に利用できる部分が多く、利用すれば手間が省けそうだと感じました。

曾根 SDGsにはゴール目標が設定されています。最終的には持続可能な社会をつくることができるように策定されていて、その項目が何にあてはまるのかを見つけていただくことになると思います。行政として、この番号のゴールに当てはまるものを持続可能な目標にするこ

とで、SDGsの取り組みに貢献しているという評価がされやすくなると考えています。SDGsの全く知識のない人が、こういうものだと体験できて、そのとっかかりの部分を楽しく学べるのが、彼女が先程説明したカードゲームです。推進の一環として皆さまに提案させていただきます。

町長 下川町もSDGsを始めから意識していたのではなく、自分たちの活動がどれに当てはまるのかを考えて利用されたのかなという感じがします。一番難しいのは実践だと考えられているからだと思います。

SDGsそのものが良いとか悪いという前に、総合計画で使用するにあたり、SDGsという言葉を使うことで、町民が分かりやすいのか、分かってもらうのに何が優れているのか、そういうレベルからスタートしないといけないと思います。余談になりますが、私は、まちの文書、広報でできるだけ英語は使わないようにしています。外国人を除くと38%近い方が65才以上です。その方々に、わかりやすい言葉を選ばないといけないと思いますし、なかなか出来ませんが、話しもゆっくりと話す努力をしています。「SDGsは国連で採択された意味が

あるものです」と説明しても、ご高齢の方々も含め俄かにはご理解をいただけないと感じています。

曾根 私も、本当にそう思います。

町長 下川町は、SDGsを一つのプロモーションとしての効果を狙っている点で最高だと思います。世界につながるそのコンセプトを、日本一寒いところがアピールしているという発想で下川町が着目したところが凄いなと思います。新理事長の挨拶をいただいた折、理事長さんがバッチをつけてみえたので、JCで何かやるのかなと思つて声をかけました。

曾根 そうです。2019年は日本各地の青年会議所が推進しようという運動を行っています。私もそれを知ってからSDGsについて学んでおりますので、今はまだメンバーも含めて勉強中です。ですから、メンバーも会社でどのようにSDGsの項目に貢献できているのかを探っている状態で、どこまで対応できるのかで、変わってくるのだと思います。

町長 今回、半田青年会議所のメンバーでもある山本町議につきあっていたいたのは、JCで南知多町のメンバーとしての存在感を期待しているからでございます。南知多から半田JCに参加するというのに、すごく期待していて、SDG

sの入り口を体験できるカードゲームの件も山本町議から職員に声掛けをしていただければと思いましたが、町長から依頼すると仕事になってしまいうけれど、山本町議からのご提案ということになれば若い職員が入りやすいかなと思います。

曾根 山本町議からアクションを起こしていただけたらと思います、山本君カードゲームの件お願いしますね。

ご公務でお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。

石黒 和彦 様

30歳で測量設計会社を設立後、09年に南知多町の町議会議員に出馬し当選。町議会議員の1期目途中で町長選に出馬し初当選。現在3期目の任期を務められています。

